

「JENESYS2020」日中高校生オンライン交流（東京都－江西省）の記録

1. オンライン交流概要

【目的】本プログラムは、東京オリンピックに続き、2022年には北京冬季オリンピックが開催されることから、日中の高校生同士が、テーマである「オリンピック」への思いを紹介し合うほか、学校生活や趣味、スポーツ、文化等様々な分野での交流を通じ、相互理解と友好促進を図ることを目的として実施しました。

【参加者】中国（九江市同文中学）の高校生 20名
 日本（東京学芸大学附属高等学校）の高校生 29名

【日程】

日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応（参加者の人数実績）
2022年 1月17日 東京都	【学校交流】 ① 日中主催者挨拶 ② 生徒代表挨拶 中国高校生代表、日本高校生代表 ③ 学校・地域の概要紹介 中国高校生代表、日本高校生代表 ④ グループ交流 5グループに分かれ、自己紹介（好きなスポーツ・オリンピック選手・趣味や、それらを好きな理由等を紹介）や学校生活紹介のほか、フリートーク ⑤ 中国高校生によるパフォーマンス ⑥ 日本高校生による発表 ⑦ 教員代表挨拶 中国教員代表、日本教員代表	グループ交流では、日本高校生からは、お正月に食べる「おせち料理」、中国高校生からは、サマーキャンプで作った炊き込みご飯等が紹介されたほか、校則はあるか、英語コースはあるか、課外活動は何種類あるか、毎日の宿題に何時間かかるか、年に大きなテストは何回あるか等、それぞれ関心がある分野について熱心に質問し、自由に交流しました。その後、日中高校生は、武術と合唱を融合したパフォーマンスと英語でのスピーチを通じてオリンピックへの熱い思いを表現し、お互いの文化や学校生活等への理解を深めました。 （参加者：中国側20名、日本側29名）

2. 記録写真

	
2022年1月17日 【学校交流】 短い時間の中で積極的に交流	2022年1月17日 【学校交流】 中国高校生によるパフォーマンス

3. 参加者の感想（抜粋）

中国側参加者

◆九江市同文中学 高校生

日本人とオンラインで交流できてとても楽しかったです。今回の交流は学びが多かったです。今回の活動で双方の国の文化について互いに理解を深めただけでなく、両国の友情が深まりました。今回の活動は私達高校生にとって忘れられない経験となりました。

◆九江市同文中学 高校生

日本の学生は礼儀正しく友好的だと感じました。日本のリラックスした学校生活や中国との違いを感じたほか、日中の文化の違いも知ることができました。「雨も風も乗り越えた親友同士、場所は離れていても心は一つ」。

◆九江市同文中学 高校生

今回のオンライン交流は両国の学生の交流を促進するだけでなく、両国の文化について理解を深め、視野を広げ、英会話を高める効果がありました。最も重要なことは、日本人と友人になれたことです。いつか直接会って交流をしてみたいです。

◆九江市同文中学 高校生

活動に参加して、中国の文化に更に自信を持ちました。このような活動をもっと実施し、他の国の若者にも中国文化を知ってもらえたら良いと思います。中国の若者の学習の状況を知ってもらい、学習面で交流や協力ができると互いの利益になると思います。

◆九江市同文中学 高校生

今回私は初めてこのような文化交流に参加しましたが、とても楽しかったです。オリンピックについて理解が深まっただけでなく日本の文化や学生生活について知ることができました。このような活動は日中の友好を促進すると思います。今後もこのような活動が実施されることを期待したいです。

日本側参加者

◆東京学芸大学附属高等学校 高校生

今回のイベントの大きな収穫の1つは、オンラインであっても、言語の壁を越えて会話し通じ合えると知れたことだ。その感覚を自身で体験できたことはとても貴重な経験になった。イベント後、私はとても充実感があったし、自分にとって、とても良い経験になったと感ずることができた。お互いの文化の美しさを理解することが友情を築く第一歩であり、それがより楽しい未来に向かって手を組む第一歩になるに違いない。私たちの世代の交流の活発化が今後の友好的な日中関係の構築に繋がる。そう信じて、今後も交流を続けていきたいと思えた時間だった。

◆東京学芸大学附属高等学校 高校生

グループ交流では、「フィギュアスケートの羽生結弦選手がとても好き」と発表してくださった方がいて、日本の何かを好きでいてもらえることにとても嬉しい気持ちになった。一方で、グループ交流で余った時間があったので、私たちのグループから「ジェスチャーゲーム」をZoom上ですることを提案した。しかし、中国の皆さんは誰も「ジェスチャーゲーム」を知らなくて、私たちは「ジェスチャーゲーム」は世界共通のゲームだと思い込んでいたので軽く衝撃を受けた。住んでいる国が違っていても、お互いの国のことについて興味をもっていたり、共通認識がある一方で、文化の差異があることを実感し学ぶことができた。また、この文化の差異があるからこそ交流する意義があり、交流をしてそれを知ることが自分の視野を広げていく重要な手段とあると感ずることもできた。

また、交流の中で、九江市同文中学の皆さんがオリンピックに関する歌を披露してくださったことはとても私の印象に残っている。一人一人の歌唱力が際立っていて、剣技なども披露してくださり、オンライン上ではありながらも、まるでそこにいるかのような気分になった。

英語の交流では、いくつか自分の中で反省点があったので、積極性や英語力を交流で学んだことを生かしながら向上させていきたいと強く思った。

最後に、今後もしもう1度、九江市同文中学の方々とは交流する機会があったら、ぜひお互いの学校を訪れて直接目を見てお話できたら嬉しく思う。

◆東京学芸大学附属高等学校 高校生

今まで海外の学生と交流する機会はなかったため、今回このような行事に参加することができ、嬉しく思います。新型コロナウイルス感染症が拡大し、大変な状況の中何とか開催していただきありがとうございます。オンラインという形ではありましたが、中国の学生の方々とは直接交流することで日本と中国での違い、共通項を身をもって感じられました。相手方の学校生活について聞くと学校の規模の大きさや学校で過ごす時間の長さなど我々の学校生活と大きく違い驚かされる点が多々ありました。逆に小説や音楽をはじめとして共通して触れ、知っていることもあり、違う国の異なる環境に暮らす者同士ですがつながりを感じることができました。ニュース等で感じる他国の印象にはよくないものもあります。しかし、国は国民が集まって成り立っており、相手への理解を深めたり良好な関係を築くには、人と人との交流が大切になると思います。中国という日本と関わりの深い国の同年代の方々とは交流できたのは、我々にとっても貴重な、大きな一歩目でした。これをきっかけとして英語でのコミュニケーション能力を磨き、色々な国の方とは交流し、互いの理解を深めていければいいなと思います。

4. 参加者の对外発信、報道記事等

跨越时空建桥梁，线上对话促友谊

---九江市同文中学顺利举办中日高中生线上交流活动

信息来源：外事办 作者：杨蕊 发表时间：2022-01-20 18:55:50 阅读次数：686次

为进一步促进中日两国青少年间的友好交流，推动中日高中生加深彼此了解，增进双方友谊，在中国教育部和日本文部科学省共同支持下，1月17日下午，九江市同文中学受中国教育国际交流协会和日中友好会馆的邀请，与东京学芸大学附属高中共同开展了中日高中生线上交流活动，九江市教育局局党委委员、副调研员曾瑜华，九江市教育局国际合作与交流科科长邹颖，九江教育国际交流协会主任胡亚萍，中国教育国际交流协会吴星老师，九江市同文中学校长胡德喜、副校长熊叶、纪委书记王玉兰、英语学科组部分教师与高一27名学生参加了此次交流活动。

活动伊始，中国教育国际交流协会秘书处职业教育与培训部主任何培与日本公益财团法人日中友好会馆综合交流部部长近藤香织分别就此次活动发表了致辞。何培主任在致辞中表示，感谢两校能够克服重重困难参加此次活动，希望中日两国青年能够积极交流，互相理解，期待疫情之后可以面对面相聚。近藤香织部长则在致辞中表示，2022年是重要的一年，日中两国的交流将由新一代担起重任，衷心希望两国高中生能够通过此次交流加深彼此的理解，建立深厚的友谊，达到交流文化、开拓视野的目的。



2022年1月20日(九江市同文中学ホームページ)

「(見出し) 時空を超えて橋を架け、オンライン対話で友好を促進」

○日中青少年の友好交流を一層促進し、日中高校生の相互理解と友好関係を強化するために、東京学芸大学附属高等学校の高校生と日中高校生オンライン交流を実施。

実施団体名：公益財団法人日中友好会館